

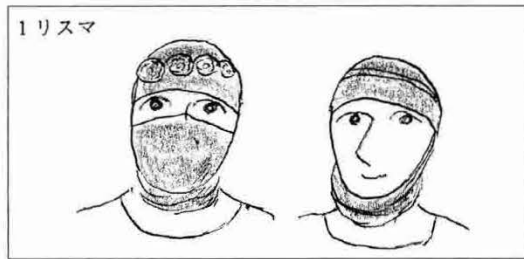
イエメン・サナア女性の「外出着」

大坪 玲子

イエメン共和国の首都サナアを歩く女性は、たいがい黒い服を着ている。彼女たちは頭の中から足元まで、文字通り黒装束である。また旧市街に行けば、赤い布を羽織った女性も多く見かける。女性が外出のときに上に着る（或いは羽織る）ものをとりあえず「外出着」と呼ぶ。「外出着」はどれも似たようなものといえないこともないが、ここではその違いにこだわって着用法を説明し、その違いにこめられた微妙な意味合いについて簡単に述べたい。言葉では十分に説明できない部分は、適宜イラストを参照していただきたい。

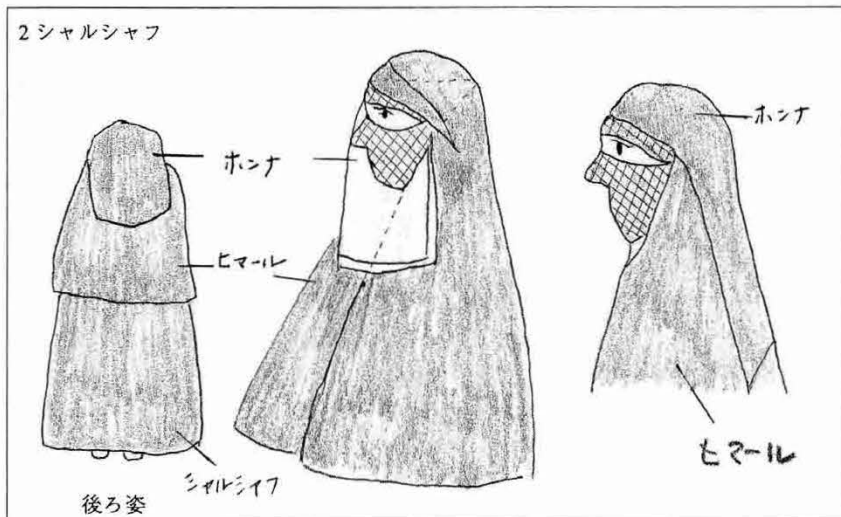
室内では、多くの女性がワンピースにリスマを付けている。リスマは1枚の長方形の布（130cm×50cm程度）で目以外を覆ってしまう。まずリスマを頭にのせて一方の端で目から下を覆い、次に額に巻き付け、残りは後ろに垂らすので髪の毛も隠れる。ふだん、女性はリスマの目から下の部分を顎まで下ろしているが、パンを焼いたり知らない男性が不意にやってきたりすると、下ろしていた部分を引っ張り上げて目の下まで隠す（イラスト1参照）。鼻に引っかける要領である。リスマはほとんどが黒色であるが、その縁は刺繍やビーズなどの飾りが付いていて、頭に巻くとちょうど額の上にその飾りが冠のように現れる。夫と子供だけで住んでいる場合、室内でリスマを付けない女性もままいる

が、たいていは頭に何か引っかけることを習慣にしている。女の子はスカーフ（ヒジャーブ）を被っている。ヒジャーブはほとんどがトルコ製で



一辺が100cm～130cmの正方形になっており、それを三角形に折って顎の下で安全ピンで留める。

外出するときに女性は上になにかを着るのだが、サナアでいちばん多く見かけるのは上から下まで黒づくめのシャルシャフというものである。老若を問わずおおかたの女性がシャルシャフを着用している（イラスト2）。シャルシャフの多くは化繊で、（黒であるが）模様が入っている。まずホンナという薄手の長方形の布（70cm×



140cm)を二つ折にしてリスマの上から顔を覆うようにして後頭部で結わう。それから巨大な三角巾のようなヒマールを被って首の後ろで結ぶ。ヒマールはほぼ半円形の布で、両端は縫い合わせるかスナップで留めるようになっているので、三角錐のてっぺんから顔を出しているようなものである。これは腰を覆うほど長い。最後にくるぶし丈の巻きスカートをかぎホックで留める。巻きスカートのこと、ヒマールやホンナまで含めた全体もシャルシャフと呼ぶ。ホンナで顔を覆っているとよく見えないので、例えば買い物をするときなどはホンナを頭上にまくり上げておく。ヒマールに袖はないので、ショルダーバッグは下に着ている服の上に直接かけ、赤ん坊はヒマールの中で抱く。

近所に出かけるときに羽織るのが、インド製のシターラと呼ばれるものである。シターラは170cm×220cmの布で、中心は青で周囲は赤く、黄色や緑の模様が入っている。シターラを羽織るときにリスマの上から顔を覆うものをモグモグという。モグモグは50cm×80cm程度で、黒地に白と赤で目玉のようなものが染めてある。サナアで染色しているモグモグは木綿であり、インドからの輸入品は化繊である。まずホンナと同じようにモグモグで顔を覆い、シターラを頭から羽織る(イラスト3)。布のふたつの角を両手で持つことになるので、両手の自由はあまりない。そのため物を頭に乘せて運んでいる女性をよく見かける。モグモグの異様な模様とシターラの派手な色彩に目を奪われがちだが、正面からシターラを羽織った女性をよく見ると、下に着ているワンピースとくるぶし丈のシルワール(ダブダブのパンツ)が丸見えである。シターラは年輩の女性が羽織っていることが多いが、近所まで出るときは若い女性も羽織る。しかし例えば結婚式に行くときにシターラを羽織っていくことはまずありえない。シャルシャフの方が公的でおしゃれなのである。

シャルシャフ以外にも「外出着」はあるが、それは長袖でくるぶし丈のコート(パールトー)に被る物を組み合わせる。パールトーはほとんどが黒色で、前が全部スナップ

で開くものとスナップが数個で上から被るものの二種類がある。被る物にはまずニカーブとマクラマがある。パルトーを着て、黒い長方形(80cm×180cm)のマクラマを顔を囲むように巻き、待ち針などで留め、その上にマスクとヘアバンドを付ける(マスクとヘアバンドの両方でニカーブと呼ぶ)。マスクは35cm×40cm程度で短い辺にゴムが付いている。ヘアバンドは幅5cm程度で、マスクのゴムを隠すように待ち針などで留める(イラスト4)。これを着ているのは若い女性で、サナア以南出身者であることが多い。シャルシャフがヒマールや巻きスカートのせいで(それに体格も加わって)横に広がった印象を与えるのに対し、ニカーブはヘアバンドをきつくしめているために縦長で細い印象を与える。

顔を出している女性も少数だが存在している。彼女たちはパルトーにヒジャーブを被っているが、西洋的価値観に接触する機会が多かった女性のようなのである。ヒジャーブのほとんどはカラフルな柄物だが、ごく最近光る生地(白色)に周囲に模様が入ったものも増えている。ヒジャーブは深く被って顎の下で安全ピンで留める。両端は肩から後ろになびかせ

3 シターラとモグモグ



4 ニカーブとマクラマ



5 ヒジャーブ



るか、片方を前に垂らし片方を後ろにやるか、もしくは両方前に垂らす（イラスト5）。ヒジャーブではなく、ニカーブを付けずにマクラマだけ付けて顔を出している女性もいる。マクラマは縁にレースなどの飾りが付いていて、被ると顔の周りか肩に飾りが現れる。

最後に学校に行くときの服装について触れよう。小学生は青いパールトーを着て白いヒジャーブを被る。パールトーは仕立て屋が作っているもので、飾りやポケットが少しずつ異なる。パールトーにヒジャーブ姿が圧倒的に多いが、白いブラウスと紺や灰色のベストとスカートがセットになった既製服を着ている子や、柄物のヒジャーブをしている子も若干いる。子どもにとっては大きなヒジャーブを顎の下で安全ピンで留めて両端をひらひらさせている子もいれば、てるてる坊主のように両端を首にぐるぐる巻きにしている子もいる（イラスト6）。

中高生になると、青いパールトーに白いヒジャーブを被る他、ニカーブやヒマールとホンナを組み合わせることもある。青いパールトーではなく黒いパールトー、もしくはシャルシャフを全て着ている子もいる。

大学生はシャルシャフ、ニカーブ、或いは柄物のヒジャーブいずれかを着用している。青いパールトーや赤いシターラを着ている女子大生はいない。シャルシャフやニカーブを付けている女性は授業中も顔は隠しているが、ホンナはまくり上げている。

以上のようにサナアの女性は(1)シャルシャフ、(2)パールトーとニカーブとマクラマ、(3)パールトーとヒジャーブ

（またはマクラマ）を公的な「外出着」としている。ある女性がこの三種類のうちどれを通常着るかはほぼ決まっている。また何人かで一緒に歩いている女性を見ると、みな同じ「外出着」を着ていることが多い。ということは「外出着」には何らかの価値観が反映されているのである。

シャルシャフを着ている女性は、顔を隠さないよりも隠す方がより良いと考えている。一方ヒジャーブを被っている女性は、顔を隠すより隠さない方がより「開明」的だと考えている。と言っても(1)(2)(3)の「外出着」が段階的に「開明」度を増していく（または逆に「イスラーム」度を減じていく）というのではない。「外出着」の選択には、出身地や社会的な階層などの要因も絡まっているのである。「外出着」によって明確に女性の分類ができるわけではないが、しかし女性はその「外出着」を着ることで、それぞれ自己主張しているのである。

（おおつば れいこ 東京大学）

6 小学生

